

サッカークラブハウスの設計・監理報告

ー浦和レッズ大原クラブハウス増築工事ー

建築本部 設計部 西田剛市
建築本部 設計部 藤田真也

1. はじめに

埼玉県さいたま市に位置する大原サッカー場は、天然芝フルコートグラウンドを2面備えた浦和レッズのトップチームの本拠地である。当社の設計・施工で2004年に竣工したクラブハウス棟は、トップチームロッカー、浴室、診療所、スタッフ事務室、プレスルーム、サポーターズカフェ、観覧席などを備えており、クラブハウス棟を中心に、トレーニングルーム棟、グラウンドキーパー棟など複数の建物で構成され、当時としてはJリーグ有数の規模を誇っていた。しかし、竣工後10年以上が経過し、トップチームに必要な機能・施設が不足している感があり、加えてJリーグ発足時からあったトレーニング棟も老朽化してきたため、本クラブハウスの増築が計画された。なお、本工事は、浦和レッズ主要スポンサーであるボラスグループのポラテック株式会社（以下、ポラテック）とJVを結成している。

2. 設計概要

2.1 建物概要

物件名称：浦和レッズ大原クラブハウス増築工事
事業主：浦和レッドダイヤモンズ株式会社
設計・監理：株式会社ピーエス三菱一級建築士事務所
施工：ピーエス三菱・ポラテック建設共同企業体
設計期間：2015年10月～2016年7月（基本設計・実施設計）
監理期間：2016年7月1日～2017年9月30日
敷地面積：33,746.00㎡
構造規模：【増築 クラブハウス棟】

RC造（一部梁PC造）、地上3階

【増築 付属施設 計3棟】鉄骨造、地上1階

建築面積：【増築】554.93㎡。【合計】1,183.17㎡

延床面積：【増築】1,291.85㎡。【合計】2,358.22㎡

2.2 計画概要

本計画地は「見沼三原則」と呼ばれる建築面積制限と高さ制限のある環境保全地域の指定区域内に位置する。増設計画は既存プレハブトレーニングルーム棟の建替え、選手専用ラウンジや仮眠室などのリラックススペースおよび栄養管理を目的とした食堂と厨房の設置等、選手強化のための機能を多く付加した施設を整備することを主な目的として計画された。

2.2.1 配置計画

グラウンドを中心として配置されている扇型の既存クラブハウス棟の一翼として、増築棟を配置した（写真-1、写真-2）。建物全体がグラウンドの中心部に向いており、眺望が優れた特色を生かし、選手が主として利用するトレーニングルーム、ラウンジ、食堂およびテラスをグラウンドに面して配置した。



写真-1 建物外観（遠景）

写真-2 建物外観（近景）

2.2.2 デザイン

外装タイルの色調・パターンは、地域とサポーターに馴染み親しまれた既存クラブハウス棟を継承・同調させる事とし、同色同種に再現した特注タイルを使用した（写真-3）。また、既存クラブハウスと一体感を持たせ調和を図るため、コンクリート打放し擁壁を、増築棟を包み込む様に連続させた（写真-4）。



写真-3 外装タイル（既存棟）

写真-4 連続する擁壁

エントランスホールは3階までの吹抜け空間とし、縦基調の空間を生かしながらレッズのチームカラーを配色し、その上部に間接照明付きのエンブレムを掲げた。エンブレムは、あえてチームフラッグの様に高く掲げ、崇高な存在として位置付けた。また、吹抜け空間の中央には4個の球体形状の照明を浮遊させアクセントとした（写真-5左）。内装材の選定については着工後も事業主と打合せを重ねた。その際、プレゼンボードを作成することだけでなく、CGパース、および、360度自由に建物を動かすことのできる3D-PDFを活用し、事業主とイメージを共有させた（写真-5右）。

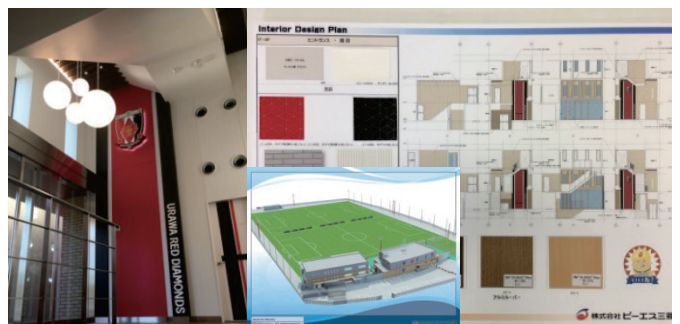


写真-5 左：エントランスホール 右：プレゼン資料

2.2.3 1階プランニング

1階概略プランを図-1に示す。前述のとおり、環境保全地域である見沼三原則により建築面積に制限があるため、制限の中で最大限に面積を活用するために、エントランスホールをコアとして廊下等を極力廃し、コンパクトな動線かつ機能的なプランを目指した。また、もう一つの制限である、建物高さ10m以下の制限内で3階建てを実現するため、トレーニングルームを半地下に配置して全体建物高さを抑制した。半地下化によりトレーニングルームの有効天井高さ約3mを確保し、各階の天井高さも2.5m以上とすることができた。梁には一部PC造を採用することでトレーニングルームの無柱空間を実現し、選手強化に向けた機能的な環境づくりへ貢献することができた。また、PC造の採用は空間の確保だけでなく、梁せいの抑制により、水位の高い地域における地下工事の軽減化を図ることで漏水リスクを軽減し、かつ建設コストの抑制にも繋がった。

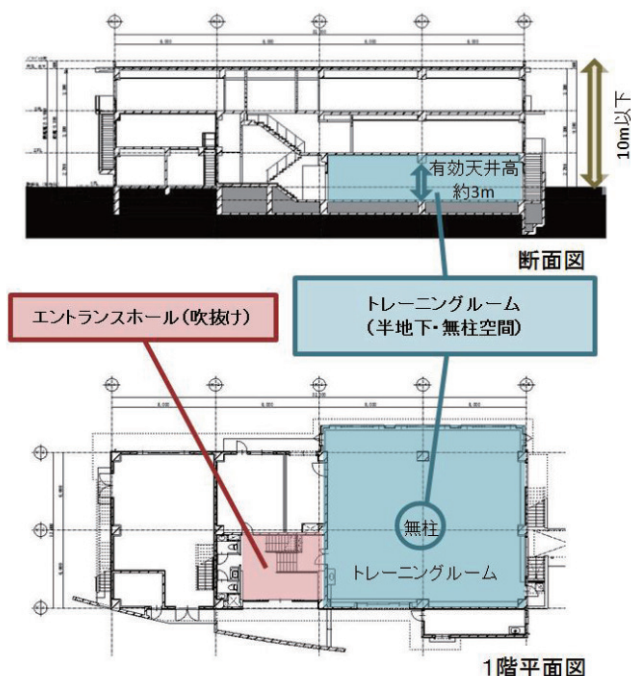


図-1 1階概略プラン

2.2.4 2階プランニング

2階にはリラクゼーションスペースとして、眺望の良いグラウンド側に選手専用ラウンジを設置した（写真-6）。また、ラウンジに隣接して仮眠室を設置し、従来の選手寮までの移動負担を大幅に軽減する計画とした（写真-7）。



写真-6 ラウンジ

写真-7 仮眠室

2.2.4 3階プランニング

3階には選手の栄養管理を目的とした食堂・厨房を新設した（写真-8）。食堂にはグラウンドに面して眺望の優れた奥行

2.5mのテラス席を設け、折戸を開放すると食堂と一体利用が可能となる（写真-9）。食堂の内装の設計および施工はポラテックが手掛け、同社の得意とする木材と木調を活用したデザインにより、温かみのあるリラックスした空間となった。また、隣接する厨房は100食分の炊事が可能であり、コンパクトながら本格的な機能を持った施設として計画した。手狭になった既存クラブハウスの拡張と機能集約を目的として、会議室・指導者控室を設置した。



写真-8 食堂

写真-9 テラス

2.4 設計工程

基本設計を2015年10月に開始し、プランニング完了は2016年2月、実施設計の完了は3月末となった。その後、見沼三原則を含む各種関係省庁との協議を完了した。しかし、敷地内の付属施設の新築・引越し、既存施設の解体、仮設建築物の申請・新築・引越し等が複雑に関連したため、実施設計完了から増築トレーニング棟着工まで7ヵ月を要した。

3. 監理概要

2016年7月から監理業務を開始した。監理とは、工事や施工図等を設計図書と照合し、それが設計図書のとおりを実施されているかを照合し、検討・確認・報告を行う業務である。当該工事においては、事業主を交えた1回/月の総合定例、設計と工事管理者、現場代理人による4回/月の分科会が監理業務の主体となった。工事完了時には各種完了検査の立会いを行い、最終的に法定の監理報告書を提出して、2017年9月に監理業務を完了した。

4. まとめ

本計画のキックオフミーティングに際して、事業主から「プロ」としてプロジェクトを遂行するよう求められた。Jリーグ有数の人気と実績を誇る「プロ」チームから言われたこの言葉は今でも強く印象に残っている。工事管理者・関係者各位にご尽力いただき、最終的に事業主から満足の言葉を頂戴できたこと、心より感謝する。

Key Words : クラブハウス, 設計報告, 環境保全地域



西田剛市



藤田真也